

平成29年度前学期 地域志向教育推進経費による教育改善取組の募集要項

1. 本取組の目的・狙い

大学COC事業「ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）」は、別紙の事業概要（別添4）のとおり、沖縄県唯一の総合大学である本学の資源を活用し、自治体等との連携体制による共働を通じて、地域再生・活性化を担う人材創出モデルや学びのコミュニティモデルを構築し、さらには教育カリキュラムの改革及び教育・研究・社会貢献機能の強化による大学改革を推進していくことを目的とした事業である。

当事業の展開の一環として、本取組では、平成29年度前学期に本学で開講される正規の授業において、地域の再生・活性化や地域課題の解決等を担い得る人材の育成を目指す「地域志向教育」をより強化し推進するため、その趣旨に沿うもので、かつ「新規性」や「改善点」が明確な教育取組を募集し、優れた取組に対して経費を支援する。

これにより、本学が、「地域に対して積極的に関与し、地域に貢献する人材」を育成する大学として、社会貢献の責務を果たすことを目指す。

2. 募集区分

本経費の募集は、以下の区分に沿って行う。

- (1) 単独型：教員が1名で行う正規の授業における取組
- (2) 連携型：教員が2名以上で行う正規の授業における取組

3. 募集する取組に求める要件

- (1) 当該地域における「特徴的な課題」を明瞭かつ具体的に設定しており、実施内容及び経費の執行内容が、その課題の理解や解決に直接的に資する取組であること。
- (2) 過去の授業との対比から、新規性や改善点を明瞭に理解できる取組であること。
なお、継続申請の取組であっても、新規性や改善点が明瞭であること。
- (3) 「地域の再生・活性化」あるいは「地域課題の解決」等に資する人材像を具体的かつ明確に設定しており、その達成に向け適合する教育方法を採用していること。
- (4) アクティブ・ラーニング型^{*1}の教育・学習を取り入れていることが望ましい。
- (5) シラバスにおいて、学生の学習成果を評価する方法並びに評価基準を明確に設定しており、かつそれらが達成目標に対し適合するものであること。
- (6) シラバスにおいて、授業の達成目標に、URGCC 学習教育目標「地域・国際性」、もしくはこれに該当する目標を設定していること。加えて、同じく URGCC 学習教育目標「社会性」、「コミュニケーション・スキル」、「問題解決力」のいずれか、もしくはこれらに該当する目標のいずれかを設定していることが望ましい。詳しくは、別添5の資料を参照のこと。
- (7) 平成29年度前学期中（平成29年9月中まで）に遂行できる取組であること。
- (8) 経費補助期間終了後においても継続的かつ発展的な授業改善が見込める取組であることが望ましい。

※1 アクティブ・ラーニング…教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的な能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。
(中央教育審議会、2012年、『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）』の「用語集」より)

4. 採択後のルール

- (1) 開講する授業科目のシラバスにおいて、「地域」を志向する授業である旨を示すこと。また、「達成目標」欄に記載される目標に、共通教育等科目の場合は、URGCC 学習教育目標の一つである「地域・国際性」を、専門教育科目においてはこれに該当する目標を含め、表記すること。上記以外の目標（「社会性」、「コミュニケーション・スキル」、「問題解決力」）を設定する場合も同様に表記すること。
- (2) 開講する授業科目のシラバスにおいて、大学 COC 事業（「ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）」事業）の一環の取組であることを明示するとともに初回授業等においてもその旨を学生に周知すること。
- (3) 経費の使用に当たっては、最少の費用で最大の効果があがるよう努めること。
- (4) RCC 事業本部が指定する期日までに「地域志向教育推進経費成果報告書」を当本部宛に提出すること。なお、当報告書提出時に、大学 COC 事業終了後における本教育改善取組の継続の必要性に関する意見提出の求めに応じること（提出様式については報告書提出依頼時に指示する）。
- (5) 本申請における授業科目と同様の内容を含む公開講座の開催や成果報告会における報告等について、RCC 事業本部との協議に対応すること。
- (6) 本申請取組が、「ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）」事業における「学びの高度化プログラム※2」として位置づけられることを了承すること。
- (7) RCC 事業本部がヒアリングおよびアンケート調査を行う場合、その求めに応じること。

※2 学びの高度化プログラム…「ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）」事業において展開するプログラムの一つで、主として本学の学生を対象に、地域への理解や地域の再生・活性化及び地域の課題解決等に関する意識の強化を図ることで、地域に貢献する人材の育成を目指すプログラム。本事業ではこの取組を通じて、本学の地域志向教育カリキュラムの改革を目指す。

5. 応募資格

- ・ 国立大学法人琉球大学職員就業規則第 2 条第 2 項で定義される大学教員。
なお、他の機関や本学から類似の経費の助成を受けていないこと。

6. 予算配分予定総額（1, 500 千円）

- (1) 単独型：1 取組当たり 200 千円を上限とする。
 - (2) 連携型：1 取組当たり 300 千円を上限とする。
- ※採択に際して、配分額の調整をおこなう可能性がある。

7. 新規・継続の区分について

申請者は、申請書面において、申請する取組の対象科目が「新規」科目（初めて本経費に応募する科目）であるか、「継続」科目（平成 26 年度後期～平成 28 年度後期に本経費による配分を受けたことがある科目）であるかの別を明示すること。

8. 新規申請者および新規科目の取組の優先について

応募件数が多数となり、優れた申請取組すべてに対し経費を配分することが困難となった場合、新規申請者（過去に本取組による採択を受けていない申請者）および新規科目の申請取組を優先して採択する。

9. 支援期間・対象

平成29年4月から平成29年9月末日までの間の教育改善活動（平成29年度前学期開講の授業科目に関連する活動）に対して支援する。また、本学の学部及び大学院で提供される授業科目を対象とする。

10. 応募期間

平成29年1月23日（月）～2月16日（木）

11. 申請について

申請者（プロジェクト代表者）は、「地域志向教育推進経費申請書」（別添2）に必要事項を記入のうえ、各担当部局にメールにて提出すること。また、併せて、今回の経費の使用対象となる科目の新規シラバス（別添3）及び当該科目の旧シラバス（最も直近のもの）を提出すること。その際、過去のシラバスからの変更点や新規性がわかるよう配慮すること。新規に開講する科目である場合には、新規シラバスのみ提出すること。

12. 選考及び選考結果の通知

各申請取組の実施概要等と本取組の趣旨（目的・狙いや要件等）とを照らし合わせた上で、選考は、RCC事業本部において行い、採択の可否について学長が決定する。選考結果は、申請者（実施代表者）に通知する。

13. 経費

（1）認められる経費については、以下のとおりである。

教材開発費、資料購入費、印刷費、消耗品費、インターンシップ諸経費、教員対象の旅費、実践教育実施のためのバス・宿泊施設の借上費用、講師謝金、講師招聘旅費等。

（2）認められない経費については、以下のとおりである。

教員の人件費、学生個人対象の旅費、機械設備費、備品購入費等。

※詳しくは、別添6の経費支出に関する留意点を参照のこと。

14. その他

（1）同じ者が複数の申請を行うことはできない。

（2）地域志向教育推進経費は、大学改革推進等補助金により文部科学省から経費措置されるものであるため、「補助金に係る予算の執行の適正化に関する法律」等により、経費の執行に一定の制限がある。

（3）提出された「地域志向教育推進経費成果報告書」により、RCC事業本部において、各教員の成果や経費の執行状況を確認し、進捗状況等の実績の評価を行う。